Ⅴ　教育課題	第12分科会　自立（特別支援教育） 研究課題　自立や社会参加の実現に向けた特別支援教育の推進と校長の在り方

分科会の趣旨

我が国が目指している社会は，互いの人格と個性を尊重し支え合う共生社会である。その実現のために，小学校教育においては，自分らしさを大切にしながら，夢や希望をもって「自立する力」を育むとともに，一人一人が仲間として支え合いながら，より良い社会を築いていこうとする「共生」の態度を養うことが大切である。

その実現のためには，子どもたちが社会の激しい変化に流されることなく，様々な課題に柔軟かつたくましく対応し，自立していくことができるように「生きる力」を育むことが求められる。

また，障害の有無にかかわらず誰もが相互に尊重し合える共生社会を築くことも大切である。

特別支援教育は，障害のある子どもの自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立って，子ども一人一人の教育的ニーズを把握するとともに能力を高め，生活や学習上の困難を改善または克服できるような指導及び支援を行うものである。また，特別支援教育は，知的な遅れのない発達障害を含めて，特別な支援を要する子どもが在籍する全ての学校においてなされるものである。

特別支援教育では，ノーマライゼーションの理念と具現化の普及，浸透に努めてきているが，平成２２年１２月に中央教育審議会において，現行の特別支援教育の充実を図る意味から，インクルーシブ教育を推進していく旨の方向が示されている。

ここでは，全教職員が特別支援教育に対する共通認識に立ち，一体となって推進していく校内指導体制の確立や，関係機関との連携等を進めることが重要となる。

本分科会では，これらの課題解決のために，校長が果たすべき役割と指導性について明らかにする。

リーダーシップの視点

（１）一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の内容の充実

特別支援を必要とする子どもは，一人一人発達や障害の種類・程度が大きく異なる。

したがって，個に応じたきめ細かな指導を効果的に行い，自立する力を育てていくために，一人一人の発達や障害の程度についての実態把握とそれに基づいた指導目標や指導内容・方法等を盛り込んだ指導計画や教育支援計画を作成することが大切である。

個に応じたきめ細かな指導は，子ども一人一人の個性や状況を見取るとともに，子どもの思いや願いを受け止めることが基盤となる。そうした視点から，校内における適切な理解と認識を深め，子どもに社会性や豊かな人間性を育むための交流学習や共同学習を，組織的・計画的に工夫する校長の役割と指導性について究明する。

（２）特別支援教育を効果的に推進するための体制の整備及び必要な取組

各学校においては，校長のリーダーシップのもと，全校的な支援体制を確立し，発達障害を含む障害のある子どもの実態把握や支援方策の検討などを行う必要がある。また，中心的な役割を果たす特別支援教育コーディネーターが機能する組織体制づくり，医療，福祉，労働等の様々な側面からの取組を含めた「個別の教育支援計画」を活用した関係機関との連携に基づく効果的な支援などの体制づくりを行う必要がある。また，教員の特別支援教育に関する専門性を高めるために，校内研修の充実や，校外での研修参加など，専門性の向上に努めさせることも大切である。特に，校内においては，事例研究や学びの支援委員会の定期的な開催など，一人一人の子どもの状況の把握やその変容について，全職員が共通理解する場を設定する校長の役割と指導性について究明する。